

卒業式の「学校長式辞」(前編)です。

平成31年3月1日(金)、「茨城県立並木中等教育学校 第6回卒業式」を挙行了いたしました。今号と次号(第409号)で「学校長式辞」の全文を掲載します。2136字・10分間の式辞です。ナビ派を代表する画家「ピエール・ボナール」が登場する式辞です。

◆卒業式での「学校長式辞」—前編—◆ 「色彩の魔術師 ピエール・ボナール」式辞

- 梅香る今日のよき日に、多くのご来賓の皆様のご臨席を賜り、ここに、茨城県立並木中等教育学校第6回卒業式を挙行できますことは、私どもとしまして大きな喜びであり、本校教職員を代表しまして深く感謝申し上げる次第でございます。
- 保護者の皆様、お子様のご卒業、まことにおめでとうございます。6年前を思い出され、お子様の成長に感激もひとしおのことと思います。中等教育学校の6年間は、自立へ向かい、自己の価値観や生き方の基礎を築く大切な時期であります。ご心配やご心労もあったと存じますが、お子様は、自らの人生を切り拓いていくのに十分な力を蓄え、今日の日を迎えております。皆様のこれまでのご協力に感謝しますとともに、本日のお子様のご卒業を心からお祝い申し上げます。
- ただ今、卒業証書を授与しました153名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんは、「Be a top learner!」の校是のもとで、本当によく学びました。私は、これまでの皆さんの努力に対し、敬意を表するとともに、本日、この並木中等教育学校を巣立つ皆さんが、夢に向かって大きく飛躍することを期待しています。
- 本日は、皆さんのこれからの活躍を期待して、まず一人の画家の話をしたしたいと思います。その画家は、「ピエール・ボナール」。1867年にパリ郊外で生まれた、ナビ派を代表する画家です。私は、東京で開催される美術展覧会に頻繁に行きます。昨年は、「フェルメール展」「ムンク展」「東山魁夷展」など、よく知られている画家の展覧会にも行きましたが、最も印象的だったのは、六本木の国立新美術館での「ピエール・ボナール展」でした。10月21日に行き、研究者によるシンポジウムにも参加しました。
- ボナールの作品には、空間構成や線の使い方に、浮世絵など日本美術の影響が見てとれます。また、身近な主題を描き続けており、思いがけない構図や、複雑に響き合う色彩によって、何気ない情景に緻密な仕掛けが施されています。私が、ボナールを好きになったのは5年くらい前です。ボナール作品の魅力は、何といたってもその豊かな色彩です。美しい色彩、巧みな色使いから「色彩の魔術師」と呼ばれることもありますし、ある評論家は「素晴らしく豪華な色彩のシンフォニー」と称しています。
- 皆さんは、絵画を鑑賞する時、何を観ていますか。私は、若いころは、形にこだわっていました。でも、クロード・モネなど印象派の絵画をたくさん観るようになってから、形よりも、色彩そのものに注目するようになりました。「ピエール・ボナール」は、とても人気のある画家です。ただ、生徒の皆さんは、まだ知らないかもしれません。今日の私の話を覚えていて、いつの日か、ボナール作品に出会ってください。その時は、皆さんの「感性」で作品を鑑賞してください。(次号に続く)

